

平成31年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立上河内西小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成31年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成31年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 16人

② 算数 16人

5 留意事項

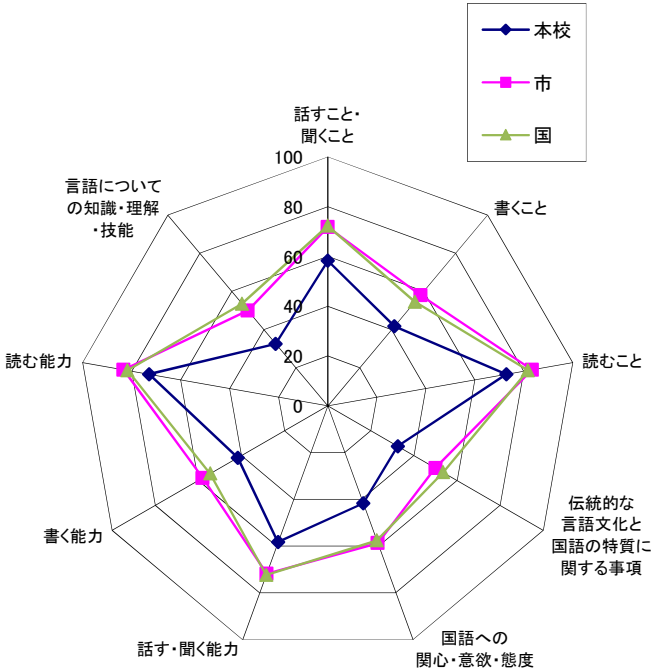
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立上河内西小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国, 市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	58.3	71.8	72.3
	書くこと	41.7	58.0	54.5
	読むこと	72.9	83.3	81.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	32.5	50.0	53.5
観点	国語への関心・意欲・態度	41.7	58.7	57.6
	話す・聞く能力	58.3	71.8	72.3
	書く能力	41.7	58.0	54.5
	読む能力	72.9	83.3	81.7
	言語についての知識・理解・技能	32.5	50.0	53.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

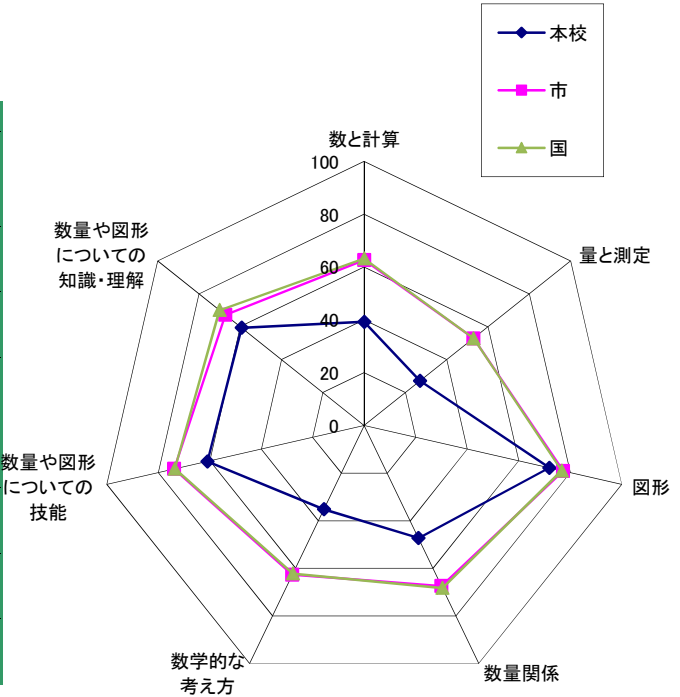
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	本校正答率は58.3%であり、市や国の平均より低い。 ●目的に応じて質問する力、話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめる力に課題が見られる。	・目的や意図に応じ、事例などを挙げながら筋道を立てて話す力が高めるように、日常生活において計画的にスピーチや発表などの言語活動を取り入れる。 ・相手や場に応じた丁寧な言葉遣いについても、日常生活の中で継続的に指導していきたい。 ・自分の考えをもったり、自分がもっている情報と知りたい情報とを整理したりする時間を確保した上で、友達同士で聞き合う活動を取り入れる。
書くこと	本校正答率は41.7%であり、市や国の平均より低い。 ●目的や意図に応じ、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く力に課題が見られる。	・文章の要旨をまとめる力を育てるために、日常的な指導も含め、日記や意見文、紹介文など書く機会を多く設定する。その際、理由として適切な情報のキーワードを見つけたり、キーワードを線でつないだりして文章構成を考えさせていきたい。
読むこと	本校正答率は72.9%であり、市や国の平均よりやや低い。 ●目的を明確にし、必要な情報を明らかにする力に課題が見られるため、文章中から必要な言葉や文を取り上げて書くことができない。	・文章を読み取る際に、要点、要約、要旨を捉えさせる。 ・小見出しをつけたり、キーワード・キーセンテンスを線で引かせることで、文章全体の内容を捉えさせていきたい。 ・必要な情報を取捨選択したり、整理したり、再構築したりして、理解したことをまとめる活動を取り入れたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	本校正答率は32.5%であり、市や国の平均より低い。 ●文と文との意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書くことに課題が見られる。 ●正しい漢字を覚えておらず、3割の児童が無回答である。	・文が長くて分かりにくいとき接続語を使うことを再確認していく。そして、文章を推敲する際、接続語を使って複数の文に書き直したものが読みやすくなったと実感させていきたい。 ・例えば、同音異義語「対象」「対称」「対照」など意味を調べる機会を設け、文や文章の中でどの漢字を使ったらよいか考えさせてい。文中に合う漢字を正しく使い分けられるよう指導を重ねたい。

宇都宮市立上河内西小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	39.3	62.7	63.2
	量と測定	27.1	52.9	52.9
	図形	71.9	77.3	76.7
	数量関係	47.3	67.4	68.3
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	35.2	62.7	62.2
	数量や図形についての技能	60.9	73.8	73.6
	数量や図形についての知識・理解	59.4	67.2	70.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	本校正答率は39.3%であり、市や国の平均より低い。 ●示された計算の仕方を解釈し、与えられた式の計算に適用する力に課題が見られる。 ●計算に関して成り立つ性質を見い出し、記述式で表現することに課題が見られ、5割が無回答である。	・授業の中で多くの計算問題を扱うだけでなく、式を作ることにも数多く経験させる。 ・文章問題に対して、必ず計算の仕方を考えさせる。ナンバリングやフローチャートを活用して、思考の流れを可視化できるようにする。
量と測定	本校正答率は58.3%であり、市や国の平均より低い。 ●示された図形の面積の求め方を解釈し、求め方を説明することに課題が見られる。 ●単位量当たりの大きさを基に、当てはまる条件を明らかにすること、求め方を説明することに課題が見られる。	・5年生の学習内容も学習プリントなどを活用して、授業や朝の学習などで常に復習できるような場を意図的に設定し、定着を図っていきたい。 ・複合図形から面積の公式を知っている図形を見い出し、図形の面積を求める問題に今後も取り組ませる。その後、式や計算を求めるための手段ではなく思考の筋道と表現する手段として説明する機会をもつようにする。
図形	本校正答率は71.9%であり、市や国の平均よりやや低い。 ●図形の性質や構成要素に着目し、図形をずらしたり、回したり、裏返したりすることで、ほかの図形を構成することに課題が見られる。	・授業において、日常生活の事象を図形に着目して観察し、的確に捉えたり、それらの構成の仕方等を図形の構成要素や性質を基に考察したりすることができるような場を意図的に設定し、指導に当たりたい。
数量関係	本校正答率は47.3%であり、市や国の平均より低い。 ●場面の状況を数理的に捉え、日常生活の問題の解決のために、伴って変わる2つの数量を見い出して判断することに課題が見られる。	・日常生活の問題の解決のために、伴って変わる二つの数量を見い出すことができるようにするために、一方の数量は他の数量に伴って一定のきまりに従って変化するかを確かめ、説明する機会を増やしていく。 ・多くの情報から必要な数量を選択し、数学的に表現することができるように、初めは簡単な数字で考えさせて、見通しを持つことができるようにする。

宇都宮市立上河内西小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「人の役に立つ人間になりたい」という設問では、肯定的な回答をしている児童の割合が93.8%と県・国の平均を上回っている。

○「将来の夢や目標を持っていますか」という設問では、肯定的な回答をしている児童の割合が87.6%と県・国の平均を上回っている。

○「授業でもっとコンピュータなどのICTを活用したいと思いますか」という設問では、肯定的な回答をしている児童の割合が93.7%と県・国の平均を上回っている。児童の関心の高さが伺われ、ICTを効果的に活用することで、学習意欲の向上につながれると考えられる。

○「今住んでいる地域の行事に参加していますか」という設問では、肯定的な回答をしている児童の割合が81.3%と県・国の平均を上回っている。

●「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」という設問では、肯定的な回答をしている児童の割合が56.3%と県・国の平均を下回っている。基本的な生活習慣の定着を図るよう指導していくことが必要である。

●「自分には、よいところがあると思いますか」という設問では、肯定的な回答をしている児童の割合が56.3%と県・国の平均を下回っている。普段の日常生活や授業の中で、認め合い、励まし合い、学び合いを意識して取り組ませることで、自己肯定感を高めていきたい。

●「学校の授業時間以外に、普段、1日あたりどれくらいの時間・勉強をしていますか」という設問では、1時間未満の児童の割合が50%と県・国の平均より学習習慣が身に付いていないことがわかる。家庭とも連携しながら、家庭学習の精選を行い、内容の充実、時間の確保を図っていきたい。

●「学校のきまりを守っているか」とについては、肯定的な回答をしている児童の割合が62.5%と県・国の平均を大きく下回っている。普段の学校生活の中で、きまりを守ることの意義をしっかりと考えて行動できるように指導していきたい。

●「新聞を読んでいますか」という設問では、75%の児童がほとんど読まないと回答している。このことから、学校でも意図的に新聞を読む学習を取り入れ、世の中のことに対する興味・関心を高めるようにしていきたい。

宇都宮市立上河内西小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	今年度、年度初めの懇談会で、全体で家庭教育の重要性を学習指導主任より話し、家庭学習強化週間を年2回実施することの協力をお願いし、実施している。 (高学年においては、1時間以上と設定している)	家庭学習時間が1時間以下と回答した児童が半数おり、内容や時間などについて個人差がかなりあることが分かり、内容の充実や時間の確保の指導を行う必要がある。
朝のパワーアップタイムの毎週実施	基礎学力が身に付いていないので、毎週2回算数と国語のプリント学習を20分間行い、担任外の教員も参加し、個別指導が必要な児童は取り出して、習熟に合わせた指導をしている。	基礎学力の差があり課題が残る。また、基礎力付いていても、記述式の問いが無回答の児童も多く、論理的に説明する力が必要である。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
教科に関する調査から、文章の中で漢字の意味を理解して使うこと、除法の意味や数量の関係に着目し除法の計算を能率的にするための工夫の方法を考えることなど、特に市・県の平均より低い。また、基礎的な計算力だけでなく、「商」などの算数の用語を理解し説明する力が必要である。	復習により定着を図る学習の工夫	課題の内容を細かく明示し、学年末までに身に付けさせることが必要である。課題となる内容について、全学年意図的系統的に授業や家庭学習を取り入れ、定着を図る。また、国語の基礎力を付け、言語力を付ける指導を重点的に行いたい。そして、児童の学習へ向かう気持ちも向上させるために、個別指導も充実したい。